

特定分野に特異な才能のある児童生徒に係る
特別の教育課程へ向けて
―国内外の潮流を踏まえて―

愛媛大学 隅田学

本日の発表の構成

1. 特定分野に特異な才能のある児童生徒に関わる教育の国際動向
2. 我が国における特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の状況
3. 本ワーキンググループにおける検討への提案

(参考資料) 我が国における本ワーキンググループに係る議論の経緯

特異な才能のある児童生徒への教育に関する「3つのパラダイム」

01 「ギフテッド児」パラダイム

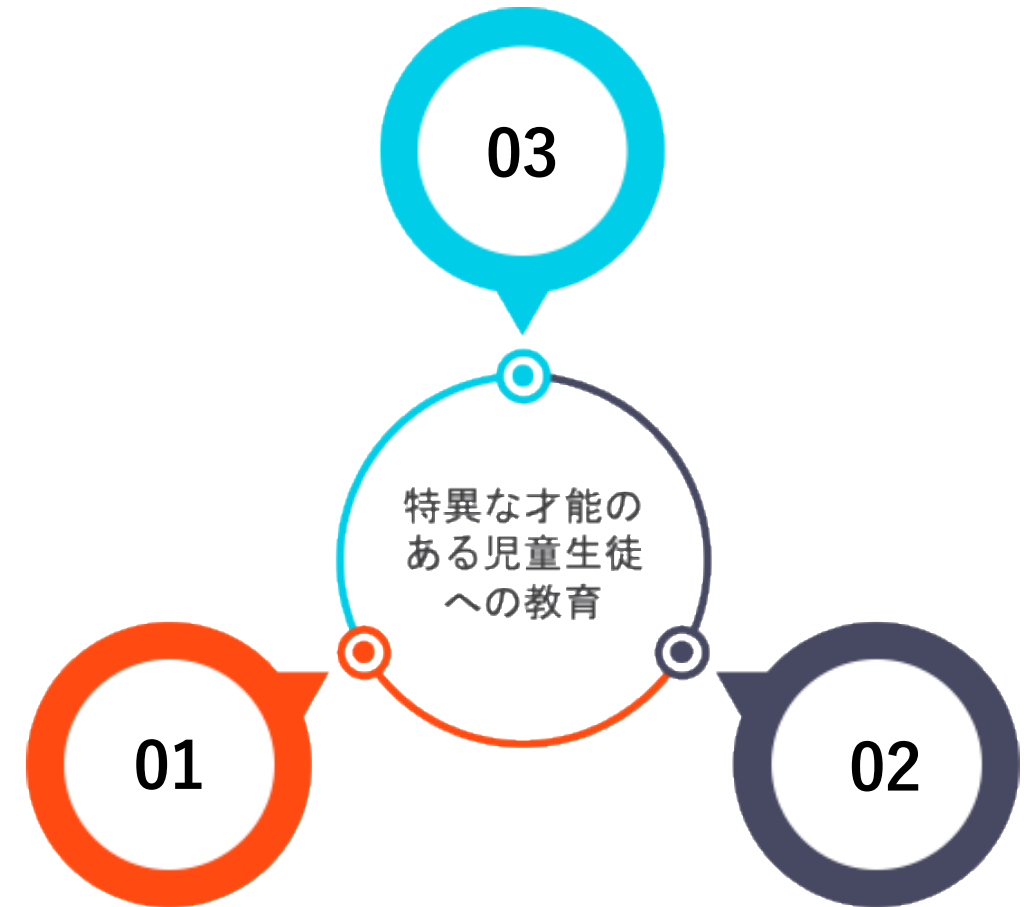
一般的な知能に基づき、特定の子供たちを「ギフテッド」と識別し、教育対象とする。特別クラス方式が主な形態となる。

02 「タレント伸長」パラダイム

動的で、多様な形で現れるギフテッド的な行動や成果として捉える考え方に転換した。子供の関心に基づく多様な学習経験や、特定領域における深い学習機会を提供する。

03 「ディファレンシエーション」パラダイム

特定の教育的文脈において、教育上の目的から子供の強みと必要な支援を判断する。通常の教育（カリキュラムのレベルや進度など）を、学習者のニーズに応じて調整する。



Dai, D. Y., & Chen, F. (2013). Three paradigms of gifted education: In search of conceptual clarity in research and practice. *Gifted Child Quarterly*, 57(3), 151-168.より作成

「才能のある児童生徒」の多義性と潜在可能性

「才能のある児童生徒」の定義は世界中で様々である。IQをその基準の一つに含むところはあるが、多面的な評価と評価のプロセスが推奨されている。子供の行動特徴やプロフィールを踏まえ、特別プログラム等に参加する場合は本人の意思を確認し、複数の段階を経て多面的かつ慎重に判断を行う必要がある。

米国における「才能のある児童生徒」の説明例



「才能のある児童生徒」とは、知的、創造的、芸術的、リーダーシップ能力、あるいは特定の学問分野で高い達成の潜在能力を示す児童生徒であり、そうした能力を十分に伸長するために通常は学校で提供されない支援や活動を要する。

(No Child Left Behind Act, 2002)

「才能のある児童生徒」は、同じ年齢、経験、環境の他の児童生徒と比較して、1つ以上の領域でより高いレベルにあるか、あるいは発揮する能力を有する。こうした児童生徒は、自分の可能性を学び、実現するために、教育経験に調整が求められる。

(National Association for Gifted Children, 2019)

韓国における「才能のある児童生徒」の説明例



「英才」とは、才能が優れた人間として、生まれつきの潜在力を啓発するために特別な教育が必要な人間をいう。（英才教育振興法第2条（定義）第1号）

「英才教育」とは、英才を対象として、各個人の能力と素質に合った内容と方法で実施する教育をいう。（英才教育振興法第2条（定義）第2号）

英才教育機関の長は、次の各号のいずれか1つの事項について優れていたり潜在力が優秀な人間のうち、当該教育機関の教育領域および目的等に適合すると認定する人間を英才教育対象者として選抜する。

1. 一般知能
2. 特殊学問適性
3. 創造的思考能力
4. 芸術的才能
5. 身体的才能
6. その他の特別な才能

（英才教育振興法第5条（英才教育対象者の選定）第1項） ※石川裕之教授訳

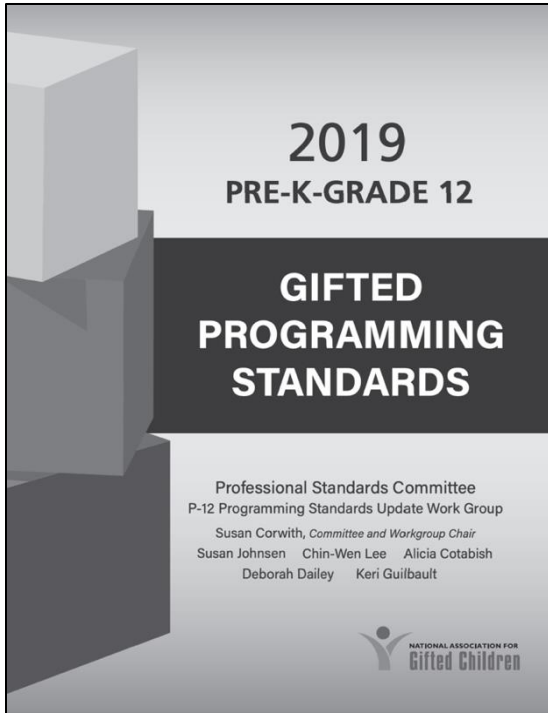
英国における「才能のある児童生徒」の説明例



1つ以上の能力が同学年の水準を著しく上回っている（または、そのような能力を伸長させる可能性をもつ）児童生徒

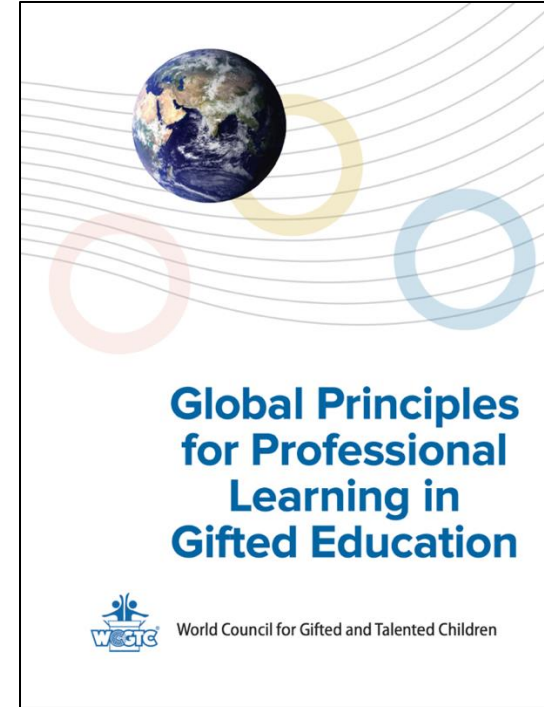
（Department for Education and Skills, 2006）

才能のある児童生徒の理解を促進し、成長を支援する教育機会の創出において、 ガイドラインが有意義である



スタンダード 1：学習と 発達 (Learning and Development)

説明：教育者は、才能のある児童生徒に見られる認知的、情意的、心理社会的領域における学習と発達の多様性を理解し、児童生徒の関心や強み、ニーズへの認識と理解を促進し、学校・家庭・地域社会において、認知的成長、社会的・情緒的スキル、ならびに心理社会的スキルの発達を支援する学習環境を構築する。



原則 1：多層的な内容 (Tiered Content)

包括的な研修プログラムは、全ての教育者が才能のある児童生徒に関わっていることを前提とする。したがって、全ての教育者は才能のある児童生徒の教育と成長を支援するために、一定の専門的な準備を要する。ただし、その内容の量や種類は、それぞれの教育者の役割に応じて異なる。

Corwith, S. et al. (2019). *2019 Pre-K-Grade 12 Gifted Programming Standards*. National Association for Gifted Children.

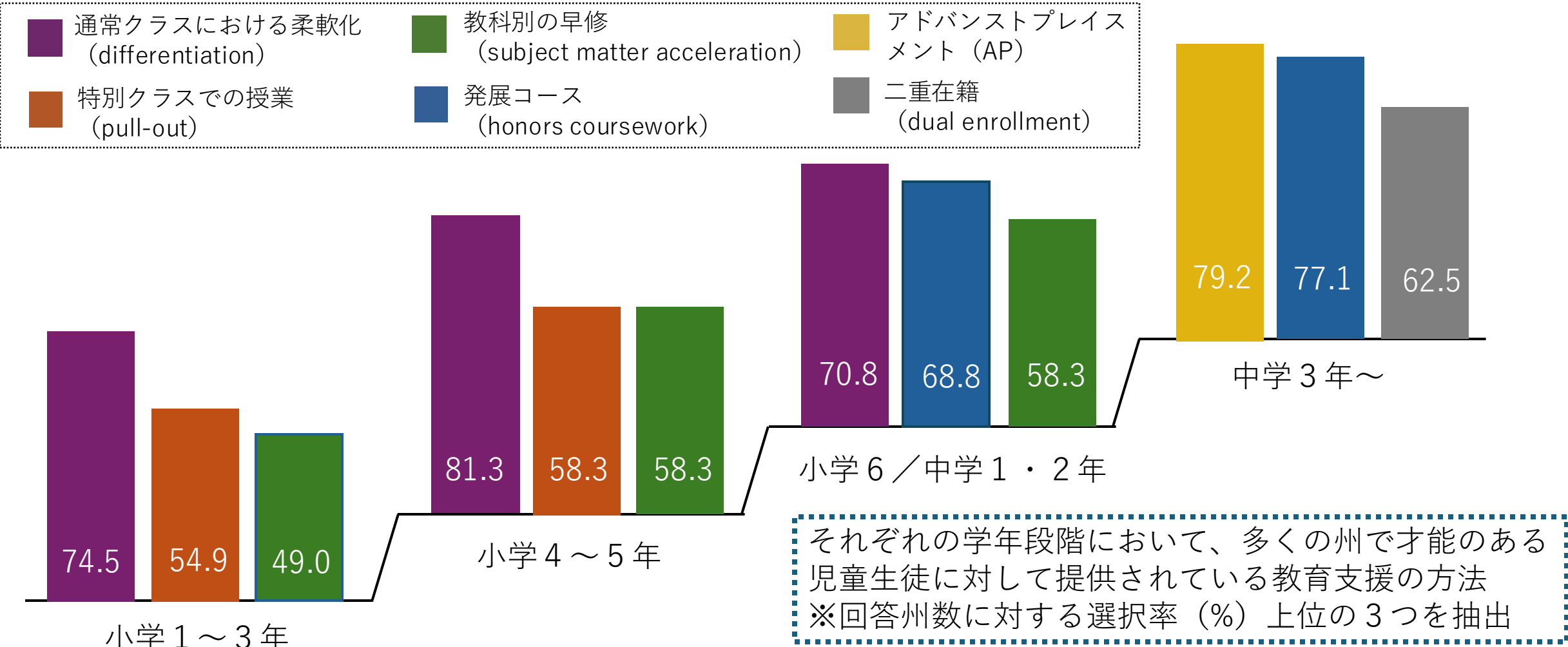
World Council for Gifted and Talented Children. (2021). *Global Principles for Professional Learning in Gifted Education*. WCGTC.

広範な領域から理論的・実践的な議論が行われている

National Association for Gifted ChildrenのNetworkグループ

- 芸術
- コンピュータ・技術
- 概念的基盤
- 創造性
- カリキュラム研究
- 幼児期
- コーディネーター
- グローバル理解促進
- LGBTQ+
- 保護者・家庭・コミュニティ
- 専門能力開発
- 調査・評価
- 社会的・情緒的発達
- 特別な配慮を要するグループ
- 特別な学校やプログラム
- STEM（科学・技術・工学・数学）

教育支援の方策は児童生徒の成長や環境に伴い変化する（米国の例）

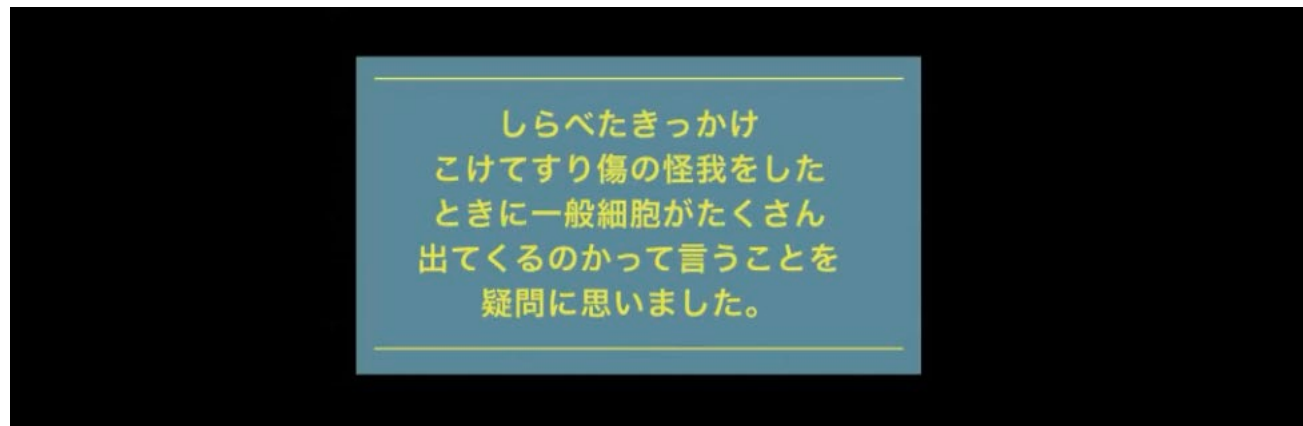
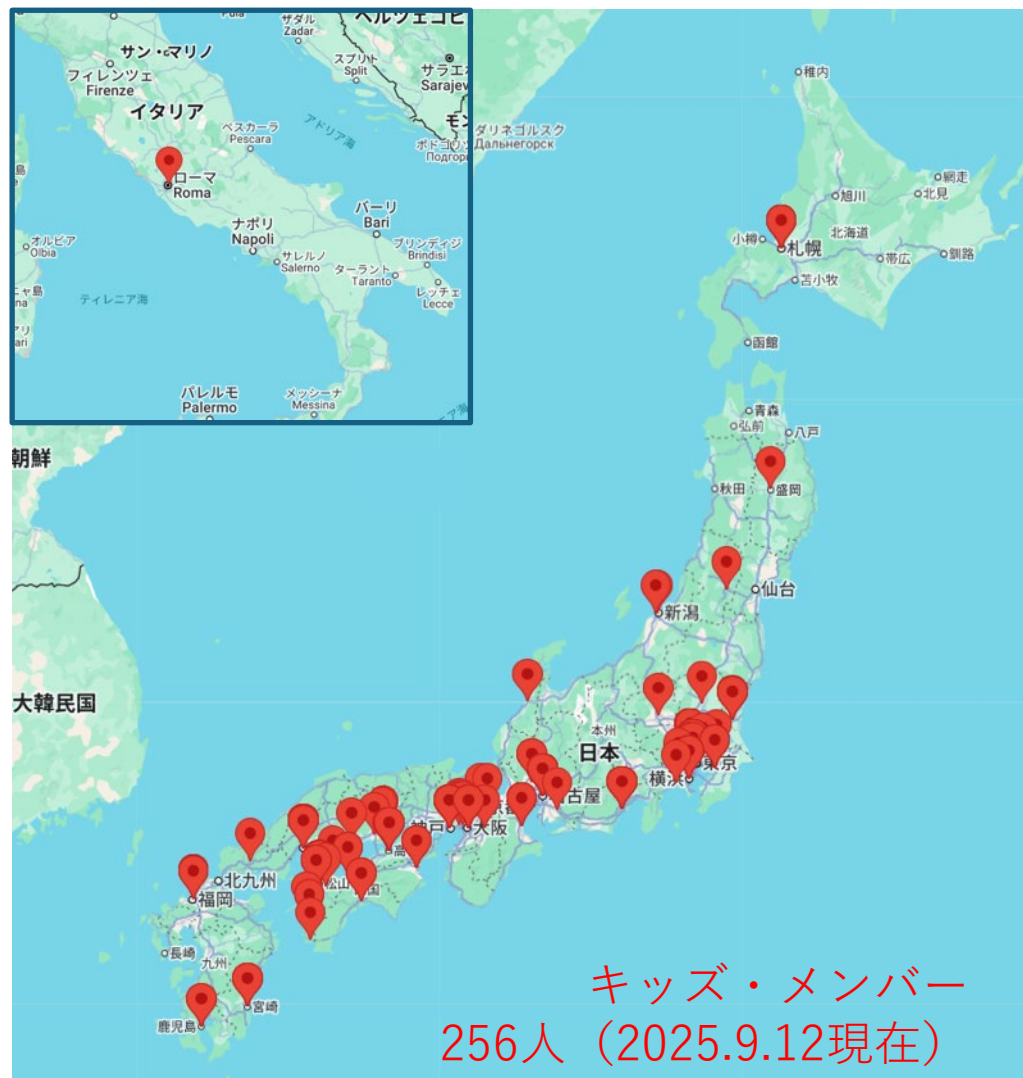


本日の発表の構成

1. 特定分野に特異な才能のある児童生徒に関わる教育の国際動向
2. 我が国における特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の状況
3. 本ワーキンググループにおける検討への提案

(参考資料) 我が国における本ワーキンググループに係る議論の経緯

特異な才能のある児童生徒は年齢や地域を問わず私たちの周りにいる



愛媛大学Kids Academiaに参加した子供（小学1年）の例



Ehime University
Kids Academia
since 2010

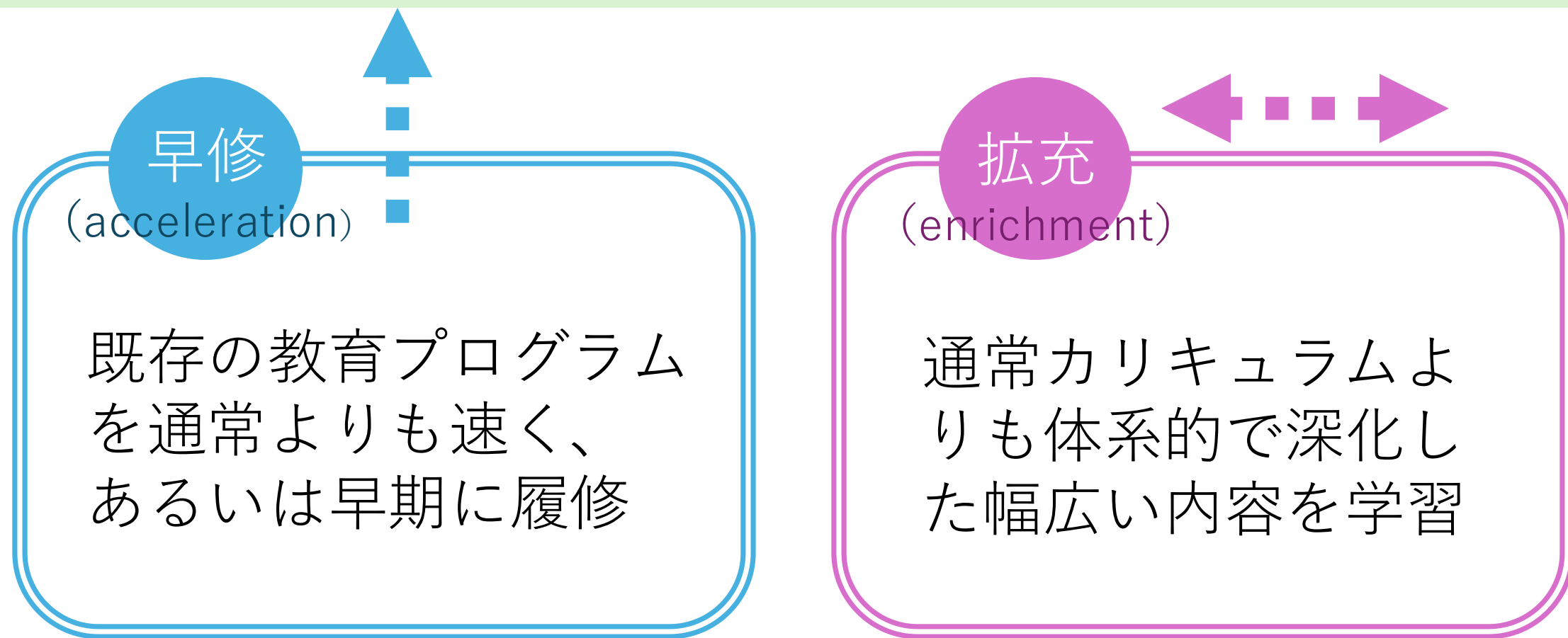
<https://kids-academia.com/>



Kids Academia（2025サマースクール）に参加する子供たちの素顔

- 1～2歳の頃からおもちゃを分解するのが好きで、幼稚園のときには自力でガチャガチャを作成。段ボールでエレベーターや観覧車を作るなど、ストーリー性のある工作が好きで、集中すると4時間以上、作業に没頭している。マンガやお話を書くのも好きで、母親のために読み聞かせ絵本を作ってくれる。（小学2年・兵庫県）
- 小さい頃から算数のセンスがずば抜けていて、年長的时候には暗算で4桁の足し算や「 23×4 」のような掛け算をしていた。小1になると「無量大数を書きたい」と言って、ノートに0の数を数えながら書いていた。1歳半でひらがなを読み出した。（小学2年・広島県）
- 海や生物のドキュメンタリーを熱心に見て、主にユニークな海洋生物について自分で図鑑を制作している。気になる漢字の成り立ちについても図鑑を作り、自作した図鑑は100冊程度になる。ものづくりにも興味があり、動かすことができる海洋生物のおもちゃを自分で設計して作っている。（小学2年・愛媛県）
- 家族でカードゲーム「素数スピード」を楽しんでおり、素因数分解を理解しています。ものづくり分野では、ハリガネと紙を使用したアニメキャラクターのハリボテを制作して、毎年地元のお祭りに出展しています（小学1年・東京都）。
- 「一番最初に生まれた人って誰なの？」「天井にも影ができるのはなぜ？」「ティッシュってなんで2枚重ねなんだろう？」など、自分なりに考えて話す姿に、探究心の芽を感じています。最近では『切っても切ってもプラナリア』という本をととても気に入っており、「本当に再生するのか見てみたい！」と、夏休みに近くの川でプラナリアを探して観察することを楽しみにしています。（幼稚園年長・広島県）

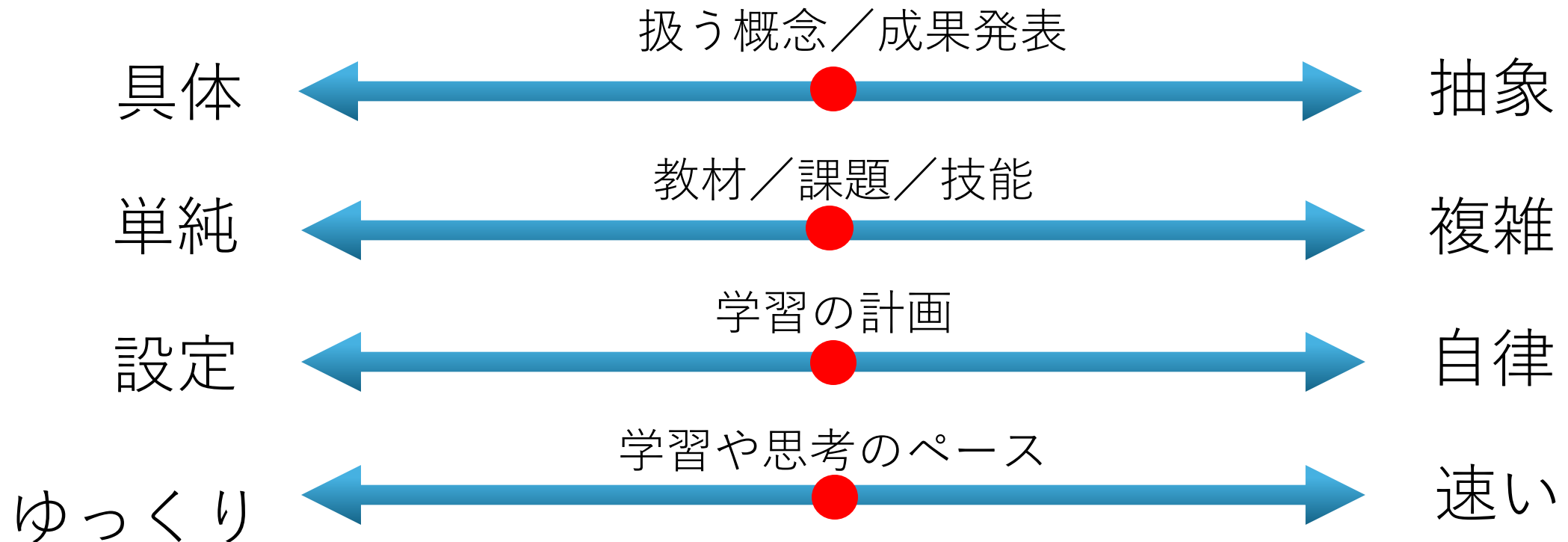
才能のある児童生徒のニーズに応じた教育課程の主要な形態



特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議. (2022). 特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議審議のまとめ (pp. 5-6) より

特異な才能のある児童生徒を包摂した授業の 「柔軟化（differentiation）」

子供たちのレディネス，興味関心，学習歴などを考慮し，授業の内容や方法などを弾力的に変化させる



特定分野に特異な才能のある児童生徒を対象とした教育支援の類型化

（隅田, 2025）

	担当教員 a	教員による連携 b	外部専門家等 c
教室内 Type I	Type I a	Type I b	Type I c
学校内 Type II	Type II a	Type II b	Type II c
学校外 Type III	Type III a	Type III b	Type III c

Type I-a（担当教員・教室内）の教育支援例

スペシャル問題を用意する

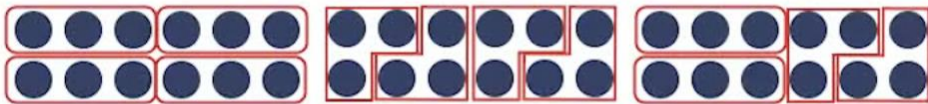
<通常の練習問題 例>

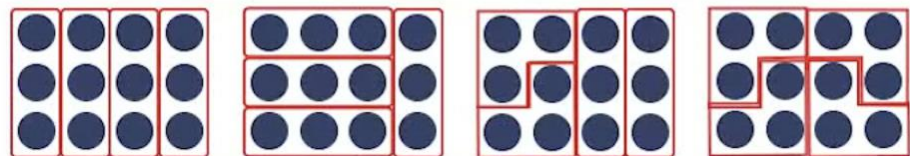
16cmのぼうを同じ長さに4つに切ると1つ分は何cmになりますか？

<スペシャル問題 例1>

12こを4人に等しく分けるとき、どんな分け方がありますか？線でかこんで考えた分け方を説明してください。また分け方をたくさん考えてみましょう。

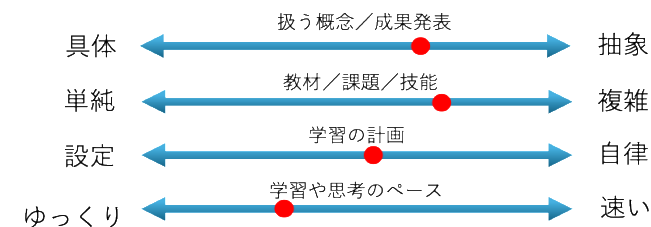
ア：1列の場合 ●●●●●●●●●●●●●●

イ：2列の場合 ●●●●●●●● → 

ウ：3列の場合 ●●●●●● → 

	担当教員 a	教員による連携 b	外部専門家等 c
教室内 Type I	Type I a	Type I b	Type I c
学校内 Type II	Type II a	Type II b	Type II c
学校外 Type III	Type III a	Type III b	Type III c

「柔軟化（differentiation）」



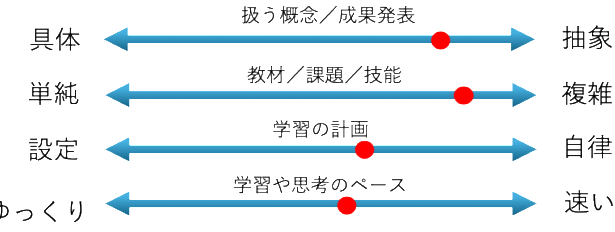
（小学3年算数の例）

Type I-b（複数教員・教室内）の教育支援例

教科横断的なパフォーマンス課題の設定
(中学3年社会・理科の例)

	担当教員 a	教員による連携 b	外部専門家等 c
教室内 Type I	Type I a	Type I b	Type I c
学校内 Type II	Type II a	Type II b	Type II c
学校外 Type III	Type III a	Type III b	Type III c

「柔軟化（differentiation）」



パフォーマンス課題

あなたは資源エネルギー庁の職員です。政府が示した「2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする」という目標について、一般の人も参加する中での公開討論会を行うことになりました。討論会のテーマは「2050年には日本の発電は何を重視していくべきか？」です。

根拠に基づいた発表資料を作成して公開討論会に臨むとともに、そこで得た学びも生かして日本の資源・エネルギーに関わる課題に対する方策と自身の行動宣言をレポート形式でまとめてください。

2050年の発電は？
グループC3 (再生可能エネルギー)

1. 問題提起 2. 仮説 3-1 根拠(環境) 3-2 根拠(安全) 4. 主張 6. 振り返り(個人) 5. 専門家議論・公開討論会

ケース4: 中学3年 理科・技術・家庭・保健体育
「ヒトの動きを科学する」の事例

事物・現象 分析・解釈

人間はなぜ走れるのか？
A. 足が地面を蹴ったときに作用反作用の法則で地面から反作用を受け取るから。

地面に斜めに力を加えるには
→ 重心を前にする
そのためにはつま先の方に重心を置く

重心後ろの時はうしろに多く飛んでいて前に進むのが遅い。
踵から着地している時もある。

重心後ろの時はなぜ遅く進むのか？
A. 歩行時の重心が後ろになるから。

反作用の力を分解するとこのようになる。この歩行の歩幅によって前に進む。

重心後ろの時はなぜ遅く進むのか？
A. 歩行時の重心が後ろになるから。

地面に対してより斜めに蹴ることで反作用の歩行の歩幅が大きくなる。
ただ重心が後ろだと歩速に比べて地面に力がかかり歩行の歩幅が小さくなる。歩速と歩幅のバランスが重要になります。歩速と歩幅のバランスが重要になります。

だから、重心は地面に対して斜めに力を加えることで進む。

これらのレポートを作成した生徒について
愛媛大学教育学部附属中学校 真木 大輔 教諭

再生可能エネルギー

The diagram illustrates various renewable energy sources and their applications, organized into two main categories: Power Generation (発電分野) and Heat Utilization (熱利用分野). Above these categories, fossil fuels and nuclear power are listed: 石油 (Oil), 石炭 (Coal), 天然ガス (Natural Gas), and 原子力 (Nuclear Power). The Power Generation section includes 太陽光発電 (Solar Power), 風力発電 (Wind Power), 水力発電 (Hydro Power), バイオマス発電 (Biomass Power), and 地熱発電 (Geothermal Power). The Heat Utilization section includes 太陽熱利用 (Solar Heat Utilization), バイオマス熱利用 (Biomass Heat Utilization), 温度差熱利用 (Temperature Difference Heat Utilization), and 雪氷熱利用 (Snow/Ice Heat Utilization). A central box labeled バイオマス燃料製造 (Biomass Fuel Production) shows the process of converting biomass into fuel. The diagram is presented in a digital interface with navigation icons at the top and bottom.

再生可能エネルギー

発電分野

熱利用分野

太陽光発電

風力発電

水力発電

バイオマス発電

地熱発電

太陽熱利用

バイオマス熱利用

温度差熱利用

雪氷熱利用

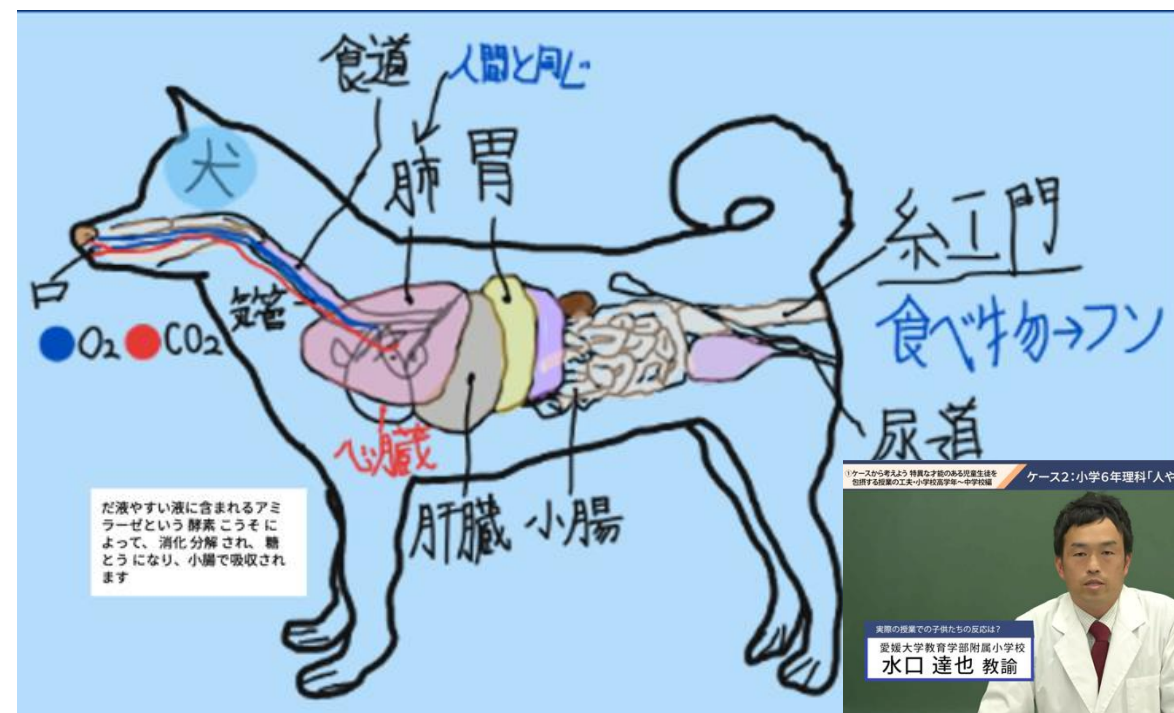
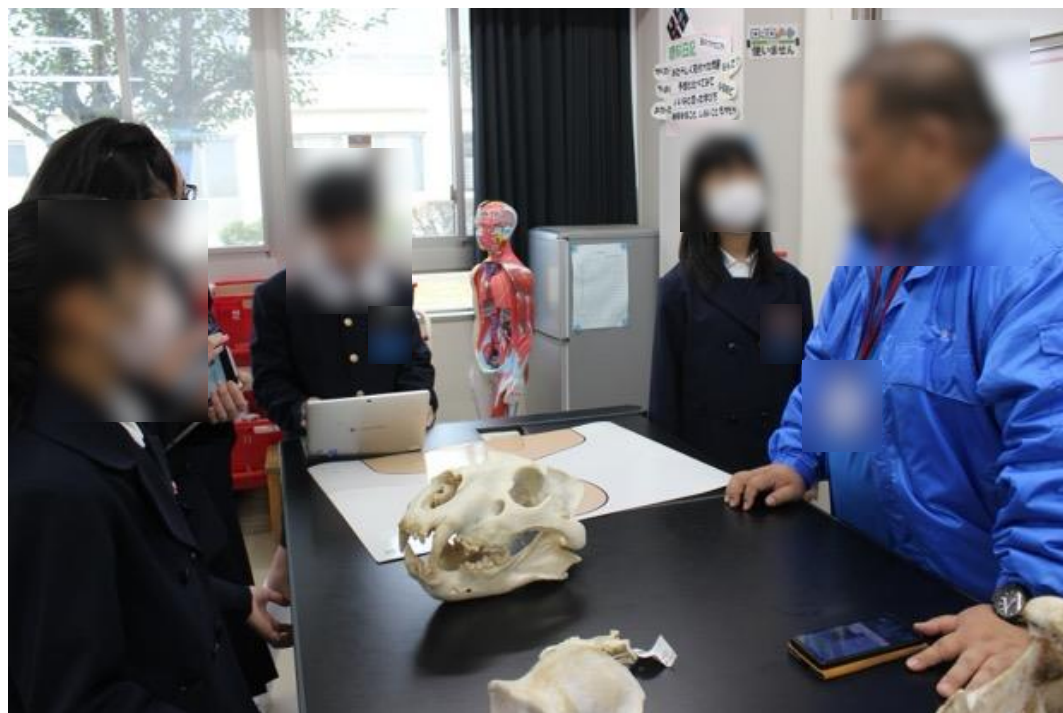
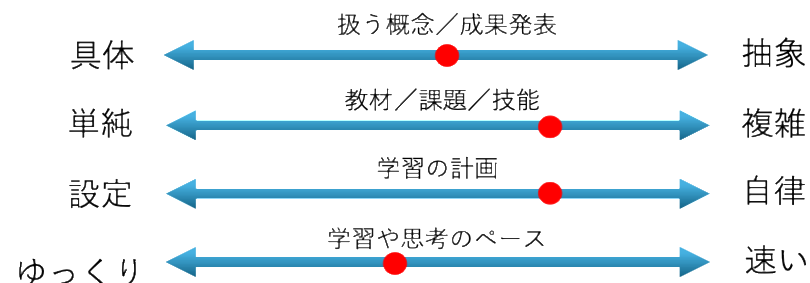
バイオマス燃料製造

Type I-c（外部専門家・教室内）の教育支援例

外部専門家による特別授業 （小学6年理科の例）

	担当教員 a	教員による連携 b	外部専門家等 c
教室内 Type I	Type I a	Type I b	Type I c
学校内 Type II	Type II a	Type II b	Type II c
学校外 Type III	Type III a	Type III b	Type III c

「柔軟化（differentiation）」



Type III-c（外部専門家・学校外）の教育支援例（1）

学校外において専門家から学ぶ

生徒の才能の原石は、主体的に取り組む研究活動を通して磨かれる

法文学部 徐福と日本
裁判員制度導入による裁判の変化と国民の反応
消費者問題について考える～インターネット通販との付き合い方～

教育学部 アダプテッドスポーツの可能性～誰でもスポーツを楽しめる社会に～
和製英語の可能性～英語を学ぶ中で生まれた疑問を解決する～
高校数学つまづきの原因とその解消方法について

社会共創学部 金融教育に資する教材の検討～デモトレードの体験を通して～
市之井手水路の記録～身近なものに目を向けて～
地域活性化に向けた興居島の魅力発信～SNSを活用して～

理学部 オイラーの多面体定理の証明～平面グラフと数学的帰納法を用いて～
廃棄物から消しゴムを作る～材料による性質の変化～
マツカサカイの人為的成熟誘導

（高校課題研究の例）

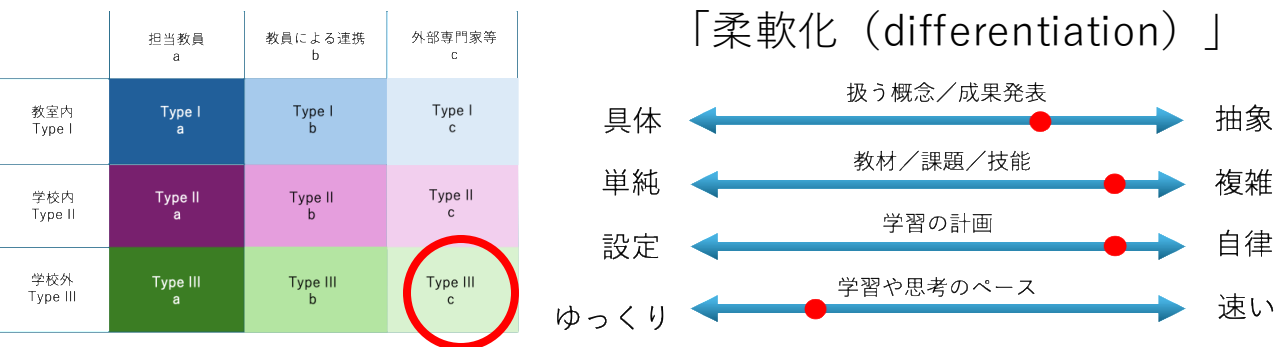
大学の先端的研究施設の使用

大学の先端的研究施設の使用

オンライン等を活用し 大学教員から指導を受け 広域でネットワークを構築

（JST次世代科学技術チャレンジプログラムの例）

令和5年度 特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業「研修パッケージの作成」（国立大学法人愛媛大学）の事例などより



Cybermentoring System（愛媛大学 隅田 開発）

動画を選択 → 動画を視聴 → 動画の一場面にコメント → コメントへ返信

再生に関わるボタン
{再生、一時停止、再生速度（2倍、1.5倍、スロー）}

管理者が登録したユーザーが特定の動画のみを試聴でき、動画のシーンとコメントがシンクロし、しおりのような機能を有する。

コメントの場面を再生時間で指定
ファイルを添付して送信可
コメントへ返信可能
指摘したコメントへスキップ

Type III-c（外部専門家・学校外）の教育支援例（2）

世界の多様な人々の中で挑戦する

② ケースから考えよう

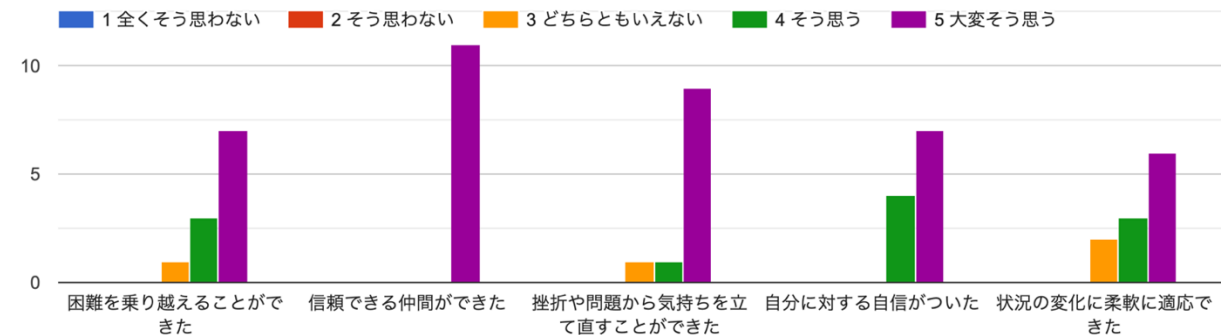
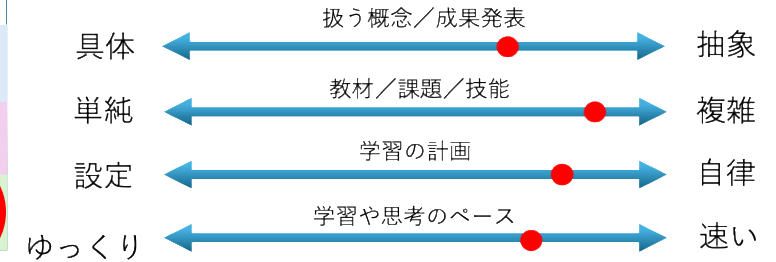
ケース3:多様な人々の中で挑戦する 世界の才能のある子供たちとつながる



第18回アジア太平洋ギフテッド教育研究大会
(Asia-Pacific Conference on Giftedness 2024)
ユースサミット（2024年8月高松開催）の例

	担当教員 a	教員による連携 b	外部専門家等 c
教室内 Type I	Type I a	Type I b	Type I c
学校内 Type II	Type II a	Type II b	Type II c
学校外 Type III	Type III a	Type III b	Type III c

「柔軟化（differentiation）」



(参加者による感想を一部抜粋)

- ・このまま自分の世界だけ見て生きてたらユースサミットで出会った子供のような子には出会えませんでした。ユースサミットに行ったことで世界が広がりました。そんな機会を作ってくださったことにとても感謝しています。
- ・APCG2024ユースサミットに参加して、将来の夢が見つかり、今しなければならなかったことや、したいことが見つかりました。そして、今回での経験で、諦めずに伝えたり、人とのコミュニケーションを大事にしていきたいです。
- ・先生やスタッフの方たちを見ていて海外の人たちと関わり、お互いが交流する場を設けたり今回のユースサミットのようなイベントをサポートしたりするお仕事はとても大変そうだけど楽しそうに興味を持ちました。

「才能と学習困難を併せ有する児童生徒（2e:twice-exceptional）」への支援や授業以外の場面に着目した支援

①「特異な才能と困難を併せ有する児童生徒」とは？

2eの児童生徒の特徴について

才能 2e 学習困難

※再現シーンは、実際の人物とは異なります

過興奮性 (Overexcitability: OE)

才能なのか困難なのか？

ダブロフスキによる5つの領域に関わる過興奮性 (Webb et al., 2016/角谷・榎原監訳 2019)

- ① 知的：好奇心、知的探索、集中力
- ② 想像的：豊かで鮮明な想像力、空想遊び、白昼夢
- ③ 感情的：過度の感受性・感情表現、人や物への強い愛着
- ④ 精神運動的：高い身体活動性、言語的情熱
- ⑤ 感覚的：過敏な五感、共感覚、刺激過多の状況避ける

等

OEはADHD、ASD等の誤診を生みやすい (Webb et al., 2016/角谷・榎原監訳 2019)
OEは、才能特性そのものではなく才能に隣接することが多い特性である (松村, 2018)



本研修の構成

- ① 「特異な才能のある児童生徒」の特性から生じる日常的な課題
- ② ケースから考えよう
ケース1：「係活動」を通して仲間を見つける
ケース2：学校と学校外の教育が連携し、子供の「強み」を認めて、育む
ケース3：多様な人々の中で挑戦する
- ③ 得意なことも困難なことも相談できる環境づくり

② ケースから考えよう
ケース1：「係活動」を通して仲間を見つける
～小学6年「プログラミング」に関する能力が高い子供の事例～

今からこのカードに
「どんな係があるといいか」を

※再現シーンは、実際の人物と体積とは異なります

令和5年度文部科学省「特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業」
研修パッケージ①「特異な才能のある児童生徒の特性の理解について振り返りシート」資料 児童生徒のプロファイルシート

考慮する点	氏名
その児童生徒の強み	小学校では見られなかったが観察で下記の強みがあった ・学んだ知識を素早く理解する (担任) ・人とは異なるユニークな事柄に関心を示す (担任) ・持っている知識や情報を使って自分の考えを述べることができる (科学教室講師) ・考えがなかったユニークな発想をするのが得意である (科学教室講師) ・大人がどう思っているのかを言葉に出すことができる (科学教室講師) ・理論的な説明ができる「○○だから○○である」 (科学教室講師)
困難なところ	小学校での困難な場面 ・対人関係に困難を示す ・作文が苦手である (教師の支援なしでは書けない) ・長い時間 読書や折り紙などにこだわり熱中する (休み時間に友達と関わらずに行う) ・授業中に皆が問題を解く場面で鼻歌を歌っていたり周りの様子と異なることをする
効果的な教育支援	キッズアカデミアを通して担任が考える教育的支援 ・対人関係においては折り紙を通して友人関係ができるように声掛けをしていく ・作文においては書く内容と形式を明確に示す ・何を書くべきか明確な指示があればきちんと書くことができるため ワークシートの工夫が必要である (科学教室講師) ・持っている考えが他の児童に理解できるように 教員が丁寧な説明に変換する (科学教室講師)
特に配慮を要する点	・対人関係 特に自分の好きな内容を一方的に 話すため会話のキャッチボールがうまく行かないときがある ・頭の中に考えはできている可能性は高い ・文章にすることが苦手なため そのための支援を考えていくと良い
関係者リスト	・小学校担任 ・研究者 (科学教室講師)

③ ケースから考えよう
ケース1：「係活動」を通して仲間を見つける
自分の好きなことを活かして、学校の先生と一緒に学校環境を良くする

読書が大好きな子供であれば
自分の好きな作家のコーナーを作ったり
書評を書いたりする機会

※再現シーンは、実際の人物と体積とは異なります

教員も保護者も児童生徒の特異な才能に気づき、悩みを抱え、 信頼性のある情報や意見交換の場を求めている

愛媛大学教育学部附属才能教育センターへの相談例

■（教員より）小学校低学年の児童で知能が高く、英語力も高い。プログラミングに強い関心がある。他の児童と同じ進度での学習が難しい。衝動的な行動により、後から振り返ってショックを受ける。知識が豊富で、よく話す。教員は褒めたい気持ちがあるものの、その子供中心の授業になってしまうことになりそうで、対応に悩んでいる。

■（保護者より）植物を一度見ただけで、写真のように細かい部分まで記憶できる（生育環境・気温・光・周りの植生なども含む）。興味のないことには意欲や集中力が向きにくい。運動が苦手。親が専門家ではないため、より高度な知識や実践的な学びを深めるには限界を感じています。

センター概要



令和7年4月1日、愛媛大学教育学部附属「才能教育センター（E.U. Centre for Gifted Education and Talent Development: EU-GATE）」が設置されました。
今後我が国の学校教育における特定分野に特異な才能のある児童生徒への教育支援に対して理論的基盤と実践的指針を提供するとともに、子供一人ひとりの「強み」を育み、多様性の中で輝く個性が協調し合える社会の実現に寄与していきます。



ギフテッドに関わるすべての方が参加できるシンポジウム、勉強会などを今後も定期的で開催していただきます。

教員向けの研修会や学校で取り組めるような実践事例集などを公開していただけると嬉しいです。

今後もギフテッドに関する様々な情報発信をお願いしたいです。もし、教員を目指す学生がギフテッドに関して知っておくと良いことなどをまとめた資料などがあれば大変ありがたいです。



<https://eu-gate.jp/>

愛媛大学教育学部附属
才能教育センター (EU-GATE)
E.U. Centre for Gifted Education and Talent Development

強みを、チカラに。 才能を、未来に。

才能とは、単なる能力の高さではなく、その子自身の中にある“伸びる力”です。
愛媛大学才能教育センターでは、特定分野に特異な才能のある児童生徒に対し、
教育実践と理論研究の両面からアプローチし、子供一人ひとりの「強み」を
社会の未来につないでいきます。

客員教授・准教授



松村 暢隆
関西大学（名誉教授）



Julia Link Roberts
Mahurin Professor, Western
Kentucky University



Rena Subotnik
Academic Talent Development
Program, University of California
Berkeley

MEMBERS

センターメンバー



西田 哲也
（センター長・教授）
※附属小学校の児童から才能教育研究を行います。



中野 広輔
（副センター長・教授）
※附属小学校の児童から才能教育研究を行います。



井上 昌希
（准教授）
※附属小学校の児童から才能教育研究を行います。



西田 哲也
（准教授）
※附属小学校の児童から才能教育研究を行います。



中野 広輔
（准教授）
※附属小学校の児童から才能教育研究を行います。



井上 昌希
（准教授）
※附属小学校の児童から才能教育研究を行います。



立松 大祐
（准教授）
※附属小学校の児童から才能教育研究を行います。



中野 広輔
（准教授）
※附属小学校の児童から才能教育研究を行います。



井上 昌希
（准教授）
※附属小学校の児童から才能教育研究を行います。



中野 広輔
（准教授）
※附属小学校の児童から才能教育研究を行います。



井上 昌希
（准教授）
※附属小学校の児童から才能教育研究を行います。



井上 昌希
（准教授）
※附属小学校の児童から才能教育研究を行います。



中野 広輔
（准教授）
※附属小学校の児童から才能教育研究を行います。



井上 昌希
（准教授）
※附属小学校の児童から才能教育研究を行います。



井上 昌希
（准教授）
※附属小学校の児童から才能教育研究を行います。



井上 昌希
（准教授）
※附属小学校の児童から才能教育研究を行います。



井上 昌希
（准教授）
※附属小学校の児童から才能教育研究を行います。



井上 昌希
（准教授）
※附属小学校の児童から才能教育研究を行います。

我が国においても、才能のある子供たちのニーズに対して、できることから実践している
研究機関や民間団体などにはあり、子供たちとこうしたリソースを繋いでいく
相談支援体制の構築は論点

- 大学等の研究機関が管轄するプログラム
次世代科学技術チャレンジプログラム
グローバルサイエンスキャンパス
ジュニアドクター育成塾
東京大学メタバース工学部ジュニア講座
東京芸術大学音楽学部早期教育リサーチ
センター
総合地球環境学研究所・京都大学 など
- 民間団体が管轄するプログラム
一般社団法人Education Beyond
一般社団法人日本スクールワイド・エン
リッチメント・モデル協会
特定非営利法人ブラスビート
一般社団法人ダイアログ・ラーニング
特定非営利法人教育の環 など
- スポーツ機関が管轄するプログラム
独立行政法人日本スポーツ振興センター
公益財団法人日本パラスポーツ協会
など

令和5年度「特定分野に特異な才能のある児童生徒
への支援の推進事業」
(特異な才能のある児童・生徒の特性を把握するツールや
特異な才能のある児童・生徒の支援に資する
プログラム等のデータ収集・整理)
最終報告書

令和6年3月

株式会社ユーミックス

https://www.mext.go.jp/content/20240702-mxt_kyoiku01-000027147_11.pdf



令和6年度「特定分野に特異な才能のある児童生徒
への支援の推進事業」
(特異な才能のある児童・生徒の特性を把握するツールや
特異な才能のある児童・生徒の支援に資する
プログラム等のデータ収集・整理)
報告書

令和7年3月

株式会社ユーミックス

https://www.mext.go.jp/content/20250421-mxt_kyoiku01-000035034_09.pdf



本日の発表の構成

1. 特定分野に特異な才能のある児童生徒に関わる教育の国際動向
2. 我が国における特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の状況
3. 本ワーキンググループにおける検討への提案

(参考資料) 我が国における本ワーキンググループに係る議論の経緯

1. **特定分野に特異な才能を有する児童生徒は全国に存在。**WGではこうした子供たちの具体的な状況や実現可能な支援の手立て等を具体的に共有していくことで、理論と実践を架橋する議論を進めつつ広く社会の理解促進を図ることが重要。
2. **特異な才能のある児童生徒の才能の伸長と困難に着目した支援の両方の側面を大切にしながら検討を進めるべき。**
3. こうした子供たちへの指導・支援については、通常クラスにおける柔軟化（differentiation）による対応のほか、並行して議論されている調整授業時数制度や学年区分の弾力化といった学校の教育課程の柔軟化により対応することも考えられる。
このため、**特異な才能のある児童生徒への指導・支援を「すべて子供一人一人への特別の教育課程で対応する」と考えるのではなく、①通常の学習指導での工夫 ②学校の教育課程の柔軟化による対応 ③個々の子供への特別の教育課程の編成といった複層的な手立てのすみ分けを意識しながら検討を進めていくことが必要。**（このことは、特別の教育課程に対する教育現場の負担や負担感の忌避感を防ぐ観点からも重要）
4. **特異な才能のある児童生徒は全国に存在しているが、こうした子供向けの学びや相談支援のリソースは偏在している。特別の教育課程を円滑に実施する上では、特異な才能のある児童生徒が居住地にかかわらずその特性等に応じた学びにアクセスしやすくなるようにするため、広域的な相談支援体制の在り方も論点。**

本日の発表の構成

1. 特定分野に特異な才能のある児童生徒に関わる教育の国際動向
2. 我が国における特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の状況
3. 本ワーキンググループにおける検討への提案

(参考資料) 我が国における本ワーキンググループに係る議論の経緯

中央教育審議会答申（2021）

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～

- 個々の才能を存分に伸ばせる高度な学びの機会など新たな学びへの対応
- 特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する指導
- 個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会の提供等に、ICTの持つ特性を最大限活用していくことが重要
- 才能を十分に伸ばし、また社会性等を育むことができるよう、学校教育の質を高める

https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf



「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、
協働的な学びの実現～（答申）

令和３年１月２６日
中央教育審議会

特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議 審議のまとめ（2022）

「児童生徒を特定の基準で選抜し特別なプログラム等を提供することを目指すのではなく、才能のある児童生徒を含む全ての子供たちが多様性を認め合い、高め合える指導・支援の在り方を考えていくことを基本的な考え方としている。」（p. 3）

- 特異な才能のある児童生徒の理解のための周知・研修の促進
- 多様な学習の場の充実等
- 特性等を把握する際のサポート
- 学校外の機関にアクセスできるようにするための情報集約・提供
- 実証研究を通じた実践事例の蓄積

https://www.mext.go.jp/content/20220928-mxt_kyoiku02_000016594_01.pdf



特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する
学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議
審議のまとめ

～多様性を認め合う個別最適な学びと協働的な学びの
一体的な充実の一環として～

令和4年9月26日

特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する
学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議

特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業（2023-2024）

- 特異な才能のある児童生徒に関する研修パッケージの作成
国立大学法人愛媛大学
- 特異な才能のある児童生徒の特性を把握するツールや特異な才能のある児童生徒の支援に資するプログラム等のデータ収集・整理
株式会社ユーミックス
- 特異な才能のある児童生徒に対する指導・支援に関する実証研究
長野県教育委員会, 八王子市教育委員会, 鎌倉市教育委員会, 名古屋市教育委員会, 京都市教育委員会, 国立大学法人東京学芸大学, 国立大学法人筑波大学, 国立大学法人三重大学, 学校法人星槎
- 特異な才能のある児童生徒の指導・支援を行う教職員・保護者を対象とする相談支援に関する実証研究
特定非営利活動法人日本教育再興連盟

令和5年度

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/169/mext_00006.html



令和6年度

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/169/mext_00012.html



中央教育審議会（2024）

初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）

「大幅に増加している不登校児童生徒をはじめ、特別支援教育の対象となる児童生徒や外国人児童生徒、特定分野に強い興味や関心を示したり、特異な才能のある児童生徒への支援の充実とともに、多様性を包摂し、一人一人の意欲を高め、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題」 (p. 2)

- 不登校児童生徒や特定分野に特異な才能のある児童生徒など、各学校が編成する一つのエデュケーションでは対応が難しい子供を包摂するシステムの構築に向け、エデュケーション上の特例を設けること等についてどのように考えるか。

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/mext_00003.html



特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業（2025-）

- 学校と連携した学習・支援プログラムの提供及び評価の在り方に関する実証研究
多様な学習の場の充実等
国立大学法人愛媛大学, 国立大学法人東京学芸大学, 長野県教育委員会
- 学校と連携した地域単位の相談支援体制の構築等に関する実証研究
京都府教育委員会
- 全国単位の相談支援体制の構築等に関する実証研究
国立大学法人愛媛大学

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/169/mext_00015.html

